

Rd. 3

7.12[sat] - 13[sun]

[place] 鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)

[weather] sat 晴れ sun 晴れ

**Race6は悔しい結果に終わるも、
Race7では梅垣が他を圧倒し優勝。
鈴木もランキング首位を堅守し後半戦へ。**

QUALIFYING

2025 FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP Round3が7月12日(土)・13日(日)に鈴鹿サーキットで行われた。真夏のコンディションとなった今大会では、金曜日の練習走行から#37 梅垣清が好調な走りを披露。12日(土)午前の予選でも良い流れを維持し、1回目で1分57秒470でトップに立つと、1分57秒009のコースレコードを記録。2レースともにポールポジションを手にした。#38 鈴木斗輝哉は1回目で1分57秒702を記録したが、走路外走行でタイムが不採用となるなど流れが噛み合わず、1回目は4番手、2回目は2番手となった。

●天候:晴れ ●気温:29℃ ●路面温度:33℃



RACE

12日(土)15時50分からのRace6決勝(13周)では、梅垣がスタートで遅れ3番手に後退。一方、鈴木が混戦から抜け出して2番手に上がる。トップを目指して激しく順位を争う2人だったが、最終ラップの日立Astemoシケインで互いに接触。鈴木は8位、梅垣は3番手でゴールしたが、接触行為に対する40秒のタイム加算ペナルティを受け7位となった。

Race6 ●天候:晴れ ●気温:27℃ ●路面温度:39℃

Race7 ●天候:晴れ ●気温:32℃ ●路面温度:40℃

13日(日)14時35分からのRace7決勝(13周)では、スタートでトップを守った梅垣が後続を引き離し圧倒。3.8秒のリードを築いて今季3勝目をあげた。鈴木は、この週末に抱えていた車両のトラブルが解消し、次戦につながる手応えを掴む2位を獲得した。



TOM'S TGR-DC FR

37 **KIYOSHI UMEGAKI**
Driver **梅垣 清**

Race 6
予選 1位 決勝 7位

Race 7
予選 1位 決勝 1位

	Race 6	Race 7
予選	QF1ベストタイム P1/1'57.470	QF2ベストタイム P1/1'57.009 Course Record
決勝 ベストタイム	P7/1'58.551 Fastest Lap	P1/1'58.869 Fastest Lap

TOM'S TGR-DC FR

38 **TOKIYA SUZUKI**
Driver **鈴木 斗輝哉**

Race 6
予選 4位 決勝 8位

Race 7
予選 2位 決勝 2位

	Race 6	Race 7
予選	QF1ベストタイム P4/1'58.295	QF2ベストタイム P2/1'57.550
決勝 ベストタイム	P8/1'58.849	P2/1'58.929

37



ドライバー 梅垣 清

予選は2回とも良いかたちでまとめ上げることができました。状況に合わせてドライビングをアジャストできたことで良いタイムが出ました。1レース目の接触に関しては自分もいけないところがあったので、結果をしっかり受け止めて、2レース目に向けて気持ちを切り替えました。2レース目に関しては今までで一番良いスタートを決めることができました。路面温度が高くて、後半はタイヤが苦しくなる場面もありましたが、そこをしっかりとコントロールして、今自分ができる最大限の走りができたと感じています。

38



ドライバー 鈴木斗輝哉

予選では走路外走行によるタイムの不採用もありましたが、全体的にペースが足りない状況でした。1レース目のアクシデントは残念ですし、もったいないレースだったなと思いますが、ここまで抱えていた車両のトラブルが、2レース目でかなり改善されて、フィーリングもだいぶ良くなりました。次からはもっと良いパフォーマンスが発揮できると思います。後半戦は仕切り直しという気持ちで、SUGOでは予選からトップを狙って攻めていきます。



チーム監督 山田 淳

1レース目は何事もなくゴールすればポイントが獲れるレースだっただけに、もったいない結果になりました。同士討ちはやってはいけないですし、何も結果が残りません。2人ともしっかり反省して、次に繋げてもらいたいです。全体的にレースペースを含めて2人のパフォーマンスは問題なかったと思いますが、今後に向けて取り組んでいけないといけないことがあると感じています。後半戦も2人で切磋琢磨して、戦って欲しいと思います。



PONOS

